



昭和大学
SHOWA University

一昭和大学歯科病院の理念一

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

呼吸と健康

内科クリニック 診療科長・准教授 安藤 浩一

10月に入り暑さもだいぶやわらぎ、秋の足音が聞こえてまいりました。秋は「食欲の秋」などと表現される一方で、日々の気温が安定せず、多くの台風が通過するなど気圧も変動しやすい時期でもあります。この寒暖差や気圧の変動によって自律神経がバランスを崩し、さまざまな症状の誘因となることがあります（「秋バテ」などという言葉もあるようです）。

さて、今回は呼吸と健康の関係について考えてみましょう。慢性の呼吸器の疾患（例えば進行した「慢性閉塞性肺疾患（たばこ病）」や、「間質性肺炎」）などの方は、肺活量が低下し、一回の呼吸の量も少なくなりがちです。このことは全身のさまざまな不調と関連していて、種々の全身性合併症を助長する一因ともなることが知られております。

このような慢性の呼吸器疾患の患者さんたちに適用される科学的根拠のある治療法の一つとして「呼吸器リハビリテーション」があります。そのポイントは、腹式呼吸において「息を吸うことよりも吐くこと

を意識する」ことと、「肋間筋の柔軟性を高め、深い呼吸を促す」ことです。

具体的には、口を「ウ」の形にして（口すぼめ呼吸といいます）、概ね3秒かけて鼻から息を吸い、6秒かけて息を吐きます。この呼吸器リハビリテーションで行われる呼吸法は、実は一般の方にも広く応用可能とされ、ゆっくりと長く呼吸をすることで、自律神経がリラックスし、心身の健康の安定・維持に寄与する可能性が期待されています。

何かと心身の不調をきたしやすいこの季節ではありますが、こうした自律神経に配慮した呼吸法をうまく取り入れていくことで、日常生活のリズムやパターンを良好に維持していく一助となるかもしれません。

内科クリニックでは、受診される皆様により安心・安全に受診できる環境づくりに引き続き配慮してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



- P1 巻頭言 呼吸と健康
- P2 診療科紹介：内科クリニック
- P3 新入職員 ご挨拶
- P4 部署紹介：臨床研究支援室、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：内科クリニック

内科クリニック 診療科長・准教授 安藤 浩一

内科クリニックの診療科紹介をいたします。内科クリニックでは「チーム医療」の考え方にに基づき、内科医師が歯科専門各診療科との医療連携において、歯科診療を医科の立場からさまざまな場面でサポートするとともに、各医師がそれぞれの視点から特色ある医療にも取り組んでいます。

例えば、当科は季節性アレルギー性鼻炎に対する、アレルギー免疫療法（舌下免疫療法）が可能な施設となっております。これは、アレルギーの原因であるアレルギーを少量から投与することで、体をアレルギーに慣らし、アレルギー症状を和らげる治療法です。一時期は初回投与薬の不足で、患者さんの受け入れが困難な状況が続いておりましたが、現在では薬剤入荷の目途がある程度となっておりますので、患者さんの受け入れを再開しています。もちろん時期や薬剤の出荷状況等により、治療を受けることができない場合もありますが、治療を希望される患者さんは、適宜ご相談いただければと思います。

また、睡眠時無呼吸症候群では、睡眠中の低酸素や無呼吸などによる影響で、高血圧、糖尿病、脂質異常症の頻度が増加し、脳卒中、心筋梗塞、重篤な不整脈などの急性期病変もしばしば併発します。これらの合併症により、突然死される患者さんもおられます。

また昼間の眠気はさまざまな交通事故の誘因ともなり得ます。診断には終夜睡眠ポリグラフィという検査が必要で、以前は一泊の入院が必要でしたが、近年では、在宅にて、かつ比較的安価で一泊入院での検査に匹敵する精密な検査（在宅full PSG 検査）が受けられるようになりました。

この検査は、現在はより一般的でメジャーな検査となりましたが、当院では、普及に先立っていち早くこの検査体制を整えており、これまでに通算300例以上の検査実績があります。旧機種では検査機器の装着がやや複雑であり、ご高齢の方などは検査を受けることが困難な場合もありましたが、最新機種ではこの点が改良され、ご高齢の方などでも装着がより簡便となっております。睡眠時無呼吸症候群の精密検査を受けたいが、お仕事などで入院することが困難な方、在宅検査でも旧機種では検査機器の装着が複雑すぎて困難であった方、普段と同じような環境で検査を受けたい方などは、当科までご相談ください。

より高度で専門的な医療が必要な場合は、必要に応じて昭和大学病院に紹介するなど、引き続き昭和大学病院の各専門診療科のサポートのもと、安心・安全な診療体制を維持し、適切な医療連携に寄与してまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



受付・エントランスの様子



診察室の様子（写真は菅沼医師）

新入職員 ご挨拶

本年4月よりインプラント歯科に助教（歯科）として入局いたしました佐野浩之です。

昭和大学歯科病院にて1年間の臨床研修を受け、そのうち半年間はインプラント歯科に所属しインプラント治療の魅力と奥深さを勉強させていただきました。インプラント歯科では昭和大学出身者だけでなく、さまざまな大学から入局者が集まり、全顎的なインプラント症例から即時荷重、歯牙移植など多彩な治療を行っています。かかりつけの歯科医院

では対応が難しい症例であっても可能な限り対応し、インプラント治療だけでなくむし歯や歯周病の治療なども他科と連携を取りながら、患者さん一人一人のお口全体の治療を行っております。より良い治療ができるよう日々精進していく所存です。よろしくお願いいたします。

インプラント歯科 助教（歯科） 佐野 浩之

本年4月より、顎関節症治療科に助教（歯科）として入局いたしました篠崎皓介です。

顎関節症は、顎の関節や口を閉じる筋肉の痛み、口を開けるときの関節の音および口が開かないといった症状があります。このような症状があると日常生活に支障が生じ不安になると思いますが、皆様が痛み悩まされることなく、食事や会話を楽しめるように治療に励んで行きます。

また、当科では睡眠時無呼吸症候群の治療

用のマウスピースの製作や歯ぎしりの検査、治療を行う睡眠歯科外来とコンタクトスポーツ時に歯の保護と外傷を予防するためのマウスピースの製作を行うスポーツ歯科外来といった専門外来も行っています。

まだまだ駆け出しではありますが、これから多くの経験を積んで皆様のお役に立てるよう努力して参りますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

顎関節症治療科 助教（歯科） 篠崎 皓介

本年4月より小児歯科に助教（歯科）として入局いたしました、七里茉耶です。

当科では、お子様のお口に関する病気の予防と治療を行っており、う蝕（むし歯）治療だけでなく、歯の交換に関するトラブルや歯やお口の中のケガなど、さまざまな理由で多くの患者さんが来院されています。また、食生活を含めた生活習慣指導をはじめ、他科と連携することで歯並びの相談、発音・嚥下機能の訓練も行っております。

小児は成長の途中にあり、お口の中もそれに伴い大きく変化するため、適切な時期に適切な対応を行うことが非常に大切です。お子様一人一人に寄り添い、「生涯自分のお口から健康に食事するためのサポート」ができるよう日々精進してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

小児歯科 助教（歯科） 七里 茉耶

部署紹介：臨床研究支援室

臨床研究支援室 室長 長谷川 篤司

臨床研究支援室は、昭和大学歯科病院および内科クリニックで実施される臨床研究や治験の手続きを支援する部署です。当院は大学の医療施設であるため、診療と同時に教育と研究という使命があります。従って各診療科では、自分たちの専門分野における最新かつ高度な医療技術の礎となる基礎研究や、診断法や治療法などの開発、そしてその安全性の根拠を確立するため、臨床研究や治験を行なっています。



臨床研究支援室スタッフ

臨床研究には過去の診療情報を調査、分析する「調査研究」や、患者さんの参加の同意を得て新しい治療法を探る「介入研究」などがあります。また「治験」とは、臨床研究のうち、国から「医薬品や医療手法（機器などを含む）の候補」の製造承認を得るために、実際の患者さんに使用していただき、効果や安全性を確認するものです。最近の治験の話題としては、歯科

治療で使用する局所麻酔薬の治験を実施し、製造承認が得られました。今後多くの歯科の患者さんに使用していただけるものと思います。

これら臨床研究や治験の実施にあたっては、研究者はそれぞれに守るべき法律を遵守し、倫理的かつ個人情報保護をしなければなりません。そして当院で実施する臨床研究や治験は、倫理的配慮がなされ実施されているかを、倫理委員会や院内に設置されている臨床試験審査委員会の審査を受け、病院長に許可を受ける必要があります。

臨床研究支援室員は、これら臨床研究や治験に係る法律を理解して、臨床研究では研究計画立案時のアドバイザーによる助言や研究の事務サポートを、また治験では事務局運営とコーディネーター業務を、そして臨床試験審査委員会の運営などを、学内に設置されている統括研究推進センター【SURAC】や各附属病院の臨床研究支援センター・支援室と連携して行っています。

将来にわたって最新かつ高度な医療技術を提供できるように実施している臨床研究や治験が安全かつ円滑に進捗するように支援してまいります。

当院で実施される臨床研究や治験に御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

編集後記

最近、サッカー日本代表が以前よりとても強くなったなと感じていました。ある記事によると、努力目標をチームで共有し、このことが良い効果につながっていたようです。我々のチーム医療にも参考になる話かもしれない、と思いました。秋の気配が漂い始める季節の変わり目、皆様どうぞご自愛ください。

(K.A)

